

宮崎公立大学

Miyazaki Municipal University



MMU ニュース・レター

第21号・冬

蘇州大学短期研修団の歓迎会に臨む宮公大生たち。



図書の分類番号の意味とは

教授 野中 博史



図書館に配架されている図書には全て特有の数値が表示されている。図書の背表紙に貼付されている「014.45」、「913.36」といった数値のことだ。この数値は図書館に収蔵されている膨大な図書を、一般の読者が探し出しやすいように一定の法則に基づいて配列した分類番号である。分類番号は100番台が哲学・宗教、200番台が歴史・地理、300番台が社会科学、400番台が自然科学というように表示されており、読者が政治・経済関係の本を探したいのであれば、300番台の書棚を探索すればよい。

ところで「手相の科学的考察」という本は何百番台の書棚にあるだろうか。「科学的考察」だから400番台であろうと考えて探しても絶対に見つからない。手相はどのようなタイトルがついていようと148.14。哲学、倫理、宗教などと同じ大枠の中にある。科学ではないということである。血液型は490番台で自然科学の分類枠に入るが、血液型占いは148.9番で手相と同じ148番台である。考え方のひとつではあるが科学的ではないという判断だ。最初に分類番号を決めた分類学者の合理的な眼がそこにはある。手相や血液型占いを真面目に信じている若者が多い。若者が京都見物をする際の人気スポットの一番手は、平安時代の陰陽師・安倍晴明を祭った晴明神社だそうである。若者だけではない。「心霊治療」に何百万円ものお金を貢ぐ人や、「除霊」と称して大金を騙し取られた人もいる。

占いが遊びであるうちはよい。しかし、信心が高じると、オウムの空中浮揚を信じることにもなる。「魔女」を信じたローマ法王・インノケンティウス8世は、数世紀にわたって欧米を魔女裁判の狂気に駆り立てた。学問の第一歩は科学的・合理的思考法に慣れることである。

大学祭の実行委員長は

教授 山口 裕司



開学以来毎年実施されている大学祭の歴代実行委員長はすべて男性である（今年までに計12回開催）。これは本学にまつわる七不思議のひとつ。

学生の男女比はおおよそ3対7で女性が多い。確率的には女性委員長が誕生していても不思議ではない。

様々な分野で女性リーダーに頑張してほしいと思っている私は、灯台下暗しという感が強い。男性ではダメと言っているわけではない。できれば委員長の仕事を男女隔年で担当できないかと思う。

わが国のこれまでの首相はすべて男性。その理由としては女性国会議員が圧倒的に少ないことがある。

世界各国の国会議員（下院）に占める女性議員の割合のデータがある（2004年8月末現在）。それによれば、世界でもっとも比率が高いのはアフリカのルワンダ（48.8%）である。2位以下は北欧諸国が続き、スウェーデン（45.3）、デンマーク（38.0）、フィンランド（37.5）などとなっている。

日本と同じ議院内閣制のイギリス下院の女性議員の割合は17.9%で世界49位。この国にはすでにサッチャーという女性首相が1979年に登場している。

ちなみに日本の衆議院における女性議員の比率は7.1%である（定数480に対して女性議員は34名）。世界ランキングでは97位。

しかし、公立大の現状を踏まえると、たとえ女性議員が7割になっても女性首相は生まれないのではないかと不安になるのは私だけだろうか。

年間を通じて最も大がかりなイベントである大学祭のリーダーに誰になるか今後も興味深く見守りたい。

●宮崎公立大学MMUニュース・レター 第21号——[目次] 平成16年(2004)年・冬

図書の分類番号の意味とは……………	教授 野中 博史	2
大学祭の実行委員長は……………	教授 山口 裕司	2
マラスピナ大学学術交流協定締結…	講師 下 絵津子	3
[演習Ⅲ・Ⅳ公開]私たちのゼミ紹介します⑩……………		4
玉木ゼミ[広告計画演習]/新井ゼミ[メディア論演習]/李ゼミ[東アジア地域研究論演習]/辻ゼミ[ネットワーク演習]/久保ゼミ[経済学演習]/倉ゼミ[社会学演習]		
監視する視線……………	助教授 大賀 郁夫	6

遠距離恋愛の未来を……………	助教授 川瀬 隆千	6
自分らしく突き進む……………	赤池 亮子	7
請客できる友達……………	藤田 晴美	7
平成16年度交換留学生……………		7
体育系・文科系・クラブ・サークル紹介⑩……………		8
卒業生だより……………		10
横川香葉子(宮崎県警察本部)/篠田良一(佐島テクノシステム)/東絵美(延岡市立東海中学校)/小窪佳奈絵(福岡シティクラブ事務局)だより……………		11
保健室から/学生相談室から/就職相談室から		
応援に沸いた第11回スポーツデイ……………		12

人と文化の交流を

カナダ・マラスピナ大学(MUC)学術交流協定締結



協定書に署名する:右奥からドン副理事長・リチャード学長・ジェーン理事長・津村事務組合管理者・浜野学長

●Malaspina University-College●

1969年に設立されたマラスピナ・カレッジから、1989年に州内に5つあるユニバーシティ・カレッジの一つに発展。年間を通じて8000人の学生が勉学に励むほか、海外から多くの留学生を受け入れている。所在地は、カナダ・バンクーバー島東部ブリティッシュ・コロンビア州ナナイモ市（人口7万5千人）。1年を通じて温暖な気候で、直線の砂浜が果てしなく続くロングビーチや爽快なスキーが楽しめるワシントン山にも近い。

本学とカナダ・マラスピナ大学との学術交流協定締結式が、カナダ時間の9月2日午後4時過ぎ、マラスピナ大学（MUC）ナナイモキャンパス国際教育センターで、開かれました。

締結式には両大学関係者（MUC：ジェーン理事長、ドン副理事長、リチャード学長、テレサ国際教育主任、本学：事務組合管理者津村宮崎市長、浜野学長、山根事務局長）を初め、先に職員研修生として受け入れたMUCテリー会計補佐や、本学から第一回の派遣研修生として、8月半ばから3週間の短期語学研修に参加していた学生ら、計31名が参列しました。

締結式は、MUC理事長の挨拶に始まり、本学管理者、両学長のスピーチと続きました。いずれのスピーチにも、昨年秋に両大学の国際教育・交流担当者らが日本で初めて顔を合わせて以来、いかに短い期間に深い交流へとつながっていったかが強調されていました。

本学研修生代表の下登由香さんもスピーチで締結式に花を添えました。「バスの利用に戸惑い、見知らぬ人に道を尋ね、余計に英語の勉強ができた」一笑いを取りながらも、それが真実であり、小さな事からも日々学んでいった研修生を通して、両大学の交流が形となって現れていくことが感じられました。

そして、多くの目が見守る中、MUC理事長、本学管理者、両学長が学術交流協定書に署名しました。

両大学は「様々な教育・研究活動を通じて相互交流を

促進し、併せて両国の親善と友好関係をいっそう推進することについて合意（協定書から）」したのです。

協定締結式を迎える約1年前に芽生えた交流の芽が、ぐんぐんと伸び、両大学教職員・学生の交流を通して、協定締結に至った今、さらに幅広い人と文化の交流へと発展することが期待されます。

MUCは、ミルナー・ガーデンという庭園を所有しています。その庭園の管理人夫人マーガレットさんが当ガーデンについて執筆された図書、『In Veronica's Garden』をMUC学長から本学図書館へ寄贈いただきました。本学図書館にお立ち寄りいただければ、ご覧いただけます。

（報告：講師 下絵津子）



締結式を終えて:両大学関係者とMMU短期研修生(2004夏)

[演習Ⅲ・Ⅳ公開] 多彩なゼミが開講中！ 国際

社会で真価が発揮できる人間に

玉木 徹志ゼミ[広告計画演習]

広告計画演習ゼミでは、広告を私たちの身の周りのコミュニケーション・ツールとして分析します。3年次には広告・マーケティングの基礎を多角的に学び、4年次にはそれらを基に各々の興味や関心をもとにテーマを選び卒業論文の研究に取りかかります。

卒業論文では、「地域情報誌・フリーペーパー」から「タバコ産業界革命」、「中国との文化交流と観光振興」など幅広いテーマを研究しています。しかし私たちの卒業論文の根底に共通するキーワード、それは『コミュニケーション』です。『広告はコミュニケーションである』が先生の口癖でもあります。

私たち4年生13人は玉木先生の最後の学生となるので、少し寂しいのが本音です。しかしOBの先輩たちとの縦の繋がりも強いので、玉木先生の周りは常に学生たちの笑顔であふれています。

玉木ゼミは、最後のゼミ生にふさわしく研究に打ち込むとともに、社会に出てからも真価が発揮できる人間を目指します。



広い視野と深い国際理解を

李 善愛ゼミ[東アジア地域研究論演習]

東アジア地域研究論演習は、従来の国民国家の枠組みを超える広い視野と深い国際理解を得ることにより、日本・中国・韓国からなる東アジア地域の今日的な役割を探ることを目的としたゼミです。

ゼミの内容を具体的に言うと、このゼミは2年生の春休みから始まります。春休み中に現時点での興味ある分野から卒業論文のテーマを決め、それに関する本を探し、簡単にまとめ提出します。演習Ⅲの前期には、ゼミ生全員で「ナショナリズム」についての共通の本を2冊読み、考察しました。後期からは、各自卒業論文に関する本を読んで発表する予定です。

「メディア・リテラシー」を持つ人を目指して

新井 克弥ゼミ[メディア論演習]



「メディア・リテラシー」の育成。これが私たち「メディア論」ゼミが最終的に目指しているものです。

私たちの日常をとりまくあらゆることを「メディア」とし、それを批判的に読み取る力、それが「メディア・リテラシー」。記号論、英語、文章法という3つの分野を基礎から行うことで、物事の仕組みを理解し、相手に適切な情報を伝えるための手段を学んでいます。

また、夏休みの期間を利用して約1ヶ月間、タイでフィールドワークを行っています。バンコクにあるカオサン（安宿街）を拠点にフィールドワークを行い、その情報をホームページから発信しています。これらを通し、情報収集から編集、情報発信などのノウハウを学びます。

「メディア・リテラシー」を得ることで、物事をあらゆる視点から分析し判断することができます。自分なりの視点で世界をとらえ、判断できる人を目指してがんばっています！

先生はゼミ生の意思を尊重し、一人ひとりに自主性を持たせようとします。全て自己責任なので厳しい反面、自由に発言、行動できるゆえ、とことん興味ある分野を探究できるゼミだと思います。また、少人数のゼミなので先生との距離も近く、研究室に気軽に立ち寄る事ができます。



文化が学べます

私たちのゼミ紹介します ⑰

ボランティアと福祉と教育と

辻 利則ゼミ[ネットワーク演習]

近年、インターネットが著しく普及し、私たちの生活は大変便利になりました。しかし、一方では情報格差等の深刻な問題が生じています。

私たちのゼミでは、インターネットを活用してボランティア・福祉・教育の面から課題を見出し、その解決策を考え、活動しています。

活動は大きく三つに分かれ、一つ目の活動では、高齢者向けのパソコン講習会を行ったり、学生支援に関する研究を行ったりしています。二つ目は、福祉をテーマにした活動で、視覚障害者の方のためのパソコンDISK講習会を行う他、今年7月には字幕副音声付演劇の上演も行



いました。三つ目の活動では、小中学校の総合的な学習の時間におけるインターネット利用を考え、情報・環境・英語教育や国際理解の分野で研究し、遠隔授業等を行っています。

卒論のテーマは多彩です

久保 和華ゼミ[経済学演習]

私たち経済学ゼミでは、4年生11名、3年生6名（蘇州大学からの交換留学生1名を含む）の計17名が久保先生のご指導のもと、経済学を学んでいます。3年前期では、テキストをもとに、経済学の分析ツールを取得することを目指し、後期では各々の関心や問題意識に沿い、卒業論文の作成に取り掛かります。

ゼミの時間外もサブゼミを設け、それぞれの目標を定めて自主的な活動を行います。また、3、4年生ともに集まりお茶会や飲み会を開き親睦を深め和やかな雰囲気のゼミとなっています。

経済学というと、多くの人がつづきにくいというイメージをもたれているかと思いますが、経済学の対象は幅広く、ゆえに誰にとっても身近で、生活に深くかかわった問題も取り扱っているのです。実際に卒業論文のテーマも多彩で、毎年個人個人の関心に沿ったものが揃い、経済学の問口の広さをうかがわせるものとなっています。そのため定められたテキストからだけでなく、時には世間話的な話題もテキストとして経済を学んでいるのです。



身近なテーマを社会学の視点から

倉 真一ゼミ[社会学演習]



わたしたち社会学演習では、倉先生のご指導のもと、毎週楽しく勉強しています。「社会学」と聞くと、ピンとこない、と思われがちですが、学習している内容は「時間」の社会的役割や「コネクション」と人・社会との関係など、普段は特別意識しないけれど非常に身近なもののばかりです。

ゼミの活動は、自分たちの興味・関心のあるテーマを決定し、それに関する文献を読み進めながら各章の担当者がレジュメを作成し発表、そしてレジュメに関する意見や疑問点を出し議論し合う、という活動を行っています。一つのテーマについて疑問を持ち、深く知り議論を重ねていくうちに、今までとは違った視点から「社会」を見られるようになっていくことが「社会学」の面白いところです。

また、学生と先生の年齢が近いこともあり、ゼミ中の雰囲気はとても和気あいあいとしていて、毎週笑い声が絶えません。

監視する視線

助教授 大賀 郁夫

遠い過去に作成された歴史史料が伝承され、現在私たちがそれを利用できるのは、その史料が偶然に残ったというよりも、むしろ必然的に残されたとみたほうがよい。



大学院に進学した年の夏、私ははりきって県内の史料調査をおこなった。対象地域は、東白杵郡諸塚村の黒葛原公民館と、個人所蔵家であるF家。黒葛原公民館には、慶安～寛文期の年貢関係史料が数点あり、よくこんなところに関心しながらマイクロ撮影を無事済ませた。そのあとF家に向かったが、そこには当主や家族はもちろん、多くの親類筋の人たちが集まり、私たちを待ちかまえていた。同家は村役人を勤めた家柄で、年貢・諸役関係の帳簿や証書類が数多く残されていた。私はさっそく撮影に取りかかるべく、まず分類作業をはじめた。集まった人たちは私を取り囲み、もの珍しげに私の一挙一動をじっと眺めているようだった。しかし、どうも彼らの視線が気になる。箱から史料を取上げる手の動き、カメラの下で一枚ずつ史料をめくる動き、撮影したのち史料を箱に戻す動きまで、彼らの突き刺すような視線は私の行動を監視し続けたのである。その場のえもいわれぬ雰囲気、私はとまどいを感じた。そして彼らの視線は、次第に恐怖に近いものになっていった。

撮影を終えたあと、思い切って当主に尋ねると、次のような答えが返ってきた。戦後間もない頃、ある大学の史料調査グループがこの地域を訪ねたことがあったが、その際に史料の多くをこっそり持ち帰ったそうである。当時のことであるから、教授らは大学で研究してやるというきわめて尊大な態度であり、借用書の授受もなかったらしい。その後何の連絡もなく、もちろん史料の返済もなかったという。まさに史料の略奪である。先祖代々苦勞して伝えてきた史料を、いともあっさりと略奪された悔しさがひしひしと伝わった。このような研究と称した史料略奪は、県内広い地域でみられたという。となりの高千穂町や日之影町などでも、貴重な史料が持ち去られ、行方不明になっている史料も少なくない。F家での視線は、かつての怨念による監視の視線であったのだ。

現在、研究・教育の地域還元が叫ばれ、推進されている。史料は、使うもの、利用するものではない。使わせていただく、利用させていただくものである。史料を現在まで伝えてきた、所蔵家の苦勞に対する敬意を忘れてはならない。史料に接するたび、あの厳しい視線に常に監視されていることを思い出すようにしている。

遠距離恋愛の未来を

助教授 川瀬 隆千

科学は後ろ向きの営みだ。未来を予測することが大事な仕事だが、予測はすべて過去の出来事に基づく。昨日のことに基ついて明日を占うのである。



社会心理学は、人間の社会的行動に関する科学である。人々の明日の行動を予測するために、人々の昨日の行動を思い出すのだ。昨日と同じような状況が、明日、生じれば、明日も同じような行動が見られるはずであると考え。

講義で「遠距離恋愛は続かない」という話をすると、「そんなことはない」、「私たちは大丈夫」という“反論”がたくさん寄せられる。「社会心理学には負けない」という“挑戦状”さえある。

確かに、遠距離恋愛の末に結婚したカップルも多いが、遠距離恋愛が成就しなかった例もたくさんある。社会心理学の研究では、遠距離恋愛が続くかどうかを予測するために、過去の事例をたくさん集め、続かなかった事例には存在し、続いた事例には存在しない要因を探し出すのである。その要因こそ遠距離恋愛が続かない原因であると推測できるから、現在進行中の遠距離恋愛にその要因が存在すれば、関係は続かないと予測できるわけだ。これが社会心理学における人間行動の予測である。

心理学は、長い間、物理学を手本としてきた。その伝統は社会心理学にも受け継がれている。人の心を客観的に観察し、因果関係を解明して、行動を予測するという方法は、物理学のそれである。

しかし、人の心は物ではない。手を離せば必ず落ちるわけでも、きれいな放物線を描くわけでもない。東から西に1時間に15度ずつ動くような規則性も見られない。

人は変わる。人の考えや行動は時々刻々と変化し、とどまることがない。恋愛行動も変わるし、恋愛観も変わる。当然、遠距離恋愛も変わる。過去が未来に結びつくこともあるが、そうでないことも多い。物理学を手本とした社会心理学はこの点に注意を払ってこなかった。

人は変わる。それを前提とすれば、社会心理学の仕事は、未来を切り開き、遠距離恋愛を实らせる方法を発見することではなかろうか。

「社会心理学には負けない」と、遠距離恋愛を続けている学生諸君の方が、過去にとらわれている社会心理学者よりも、人の心を理解しているのかもしれない。

遠距離恋愛の未来を切り開くような、もっとも面白い、もっとわくわくする社会心理学を構想したいものだと思う。

自分らしく突き進む

蘇州大学留学 赤池 亮子

「まるでお葬式のような静けさだ」これが、浦東空港発福岡行きの、ほぼ日本人ばかりが乗り合わせている帰国時の機内で受けた衝撃である。中国国内を旅する際に、何度か利用した中国人ばかりが乗り合わせている機内。中国人は、大きなスーツケースを機内に持ち込み、客が着席していないにも関わらず出発する飛行機。その中は、活気で溢れている。日本とはまるで正反対である。中国では、何もかにもが、「競争」である。

たとえば、図書館に入るのに、開館前から整理券が配られる。それをもらうために開館の1時間以上前から、暑い中、多くの人々が並ぶ。開館と同時に整理券が配られるのだが、その時にはもう並んでいた意味などない。我先に！！と、皆図書館に駆け込んでいく。私も真似して「割り込み駆け込み合戦」をする。その日は、最後の1枚の整理券を、他の中国人を掻き分けて奪い取ることができた。このように、中国では、自分の意思を全身体当たりでいかなければ生き残っていけない。

異国の地、中国で1年間生活したことによって、自分の意思をしっかりもち、自分の目標に従って、自分の責任で物事を選択していくことを学んだ。このような中で、語学だけでなく、精神面でも成長できたことは、自分の中の貴重な財産だ。



請客できる友達

蘇州大学留学 藤田 晴美



「請客」この言葉が今でも、心に響く。私が中国に行って得た宝物、それはまさに中国人の友達だ。彼女、彼らはよく私に「請客(食事をおごる)」をしてくれた。日本では割り勘を当たり前としていた私にとって、初め、この風習に慣れなかった。割り勘の方が均等でいいじゃないかと思っていたぐらいだ。しかし、その考えはいつの間にか、私の中で自然なことに変わっていた。

中国で、私は友達間の本当の信頼感を感じた。お互いが思い合って、お互いが「請客」する。人間関係が希薄になってきている日本に比べ、私は中国でそのような人間らしい温かさにたくさん触れることができた。本当の友達の姿を学んだ。きっと今の日本が忘れかけていることだと思う。彼女たちは私を親友としてくれ、私は心から信頼できる中国人の友達ができただの。本当に嬉しい。

「請客」には、「また次」という意味が込められている。「次は私」というように限らない。「永遠」という意味。私の蘇州での生活は、本当に彼女たちのおかげで最高の時間となった。彼女たちと話し、生の中国語を感じ取った。あの感覚を一生忘れたくないものだ。一生、彼女たちと付き合っていきたいと思う。今度会った時は、私が必ず「請客」するつもりだ。

中国でお世話になった方、すべての人に感謝したい。本当にこの蘇州での一年は私の財産である。

●平成16年度交換留学生

●蘇州大学へ

●蘇州大学から

●蔚山大学から

●ワイカト大学から



蒂谷 朋子
(おびたに ともこ)



加藤 総子
(かとう ふさこ)



于 建新
(Yu Jian Xin)



丁 静
(Ding Jing)



金 珍英
(Kim Jin Young)



宋 娟貞
(Song Yeon Jeong)



Harvey Jessica Ann

クラブ、サークル活動で大学生活の

クラブ

[体育系]

●ソフトボール部

こんにちは。五輪でのソフトボール全日本女子の活躍はまだ記憶に新しいと思います。私たちソフトボール部は現在、男女30名ほどで火、土曜に積極的に練習に取り組んでいます。

実は、私たち部員の大半は大学に入るまでにソフトボールの経験がほとんどないのです。ですから、先輩後輩と一緒に、なっちょ少しでも早く上達するような練習メニューを作っています。

と言っても、練習自体は熱くかつとても楽しい雰囲気なので、全くきつくりありません。また、市の大会に参加したり、部員同士の仲を深めるため、遠征、キャンプ、バーベキューなどをしたりと毎年様々な計画を立てています。

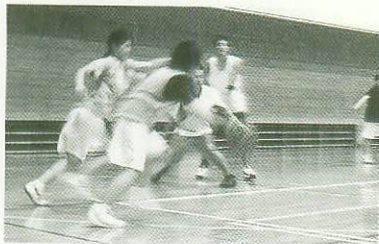
とにかく、打席に立ってヒットを打つ最高の瞬間をあなたもぜひ!!



●バスケットボール部

今の公立大バスケットボール部は部員数は30人を超えています。そのため練習メニューの種類が増え、毎回の練習にもハリがでて、みんなのバスケットに対する意識も高まりました。

女子バスケット部は、年に2回行われる県の大学リーグと、毎年夏に行われる九州地区大学体育大会に参加しています。男子は今年は人数が少ないため、これらの大会はお休みしていて、コーチらと協力して社会人チームも多く参加する県リーグに毎月出場しています。



今年は試合に参加するだけでなく、九州地区大学学生体育大会（九州インカレ）の役員を務め、ひとつの大会を運営することの大変さを知り、勉強になることがたくさんありました。



私達は今、次の大会に向けて前回の反省をふまえて練習に励んでいます。どんなときもバスケットを楽しむことを忘れず、充実した部活動の時間にしたいと思います。

[文化系]

●演劇部

「まさろう」＝バリアフリー演劇

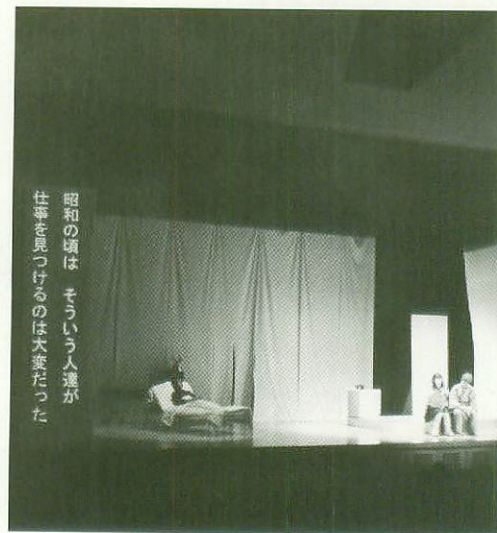
娯楽にもバリアフリーを…。この精神のもと、本学4年佐藤直樹さんが中心となった演劇部と本学ネットワーク演習（辻助教）が、健常者と障害者がともに楽しめる娯楽＝バリアフリー娯楽演劇を行いました。

演劇をバリアフリー化するために、舞台の動きを説明する副音声と字幕を使用しています。

演劇は、交通事故で下半身不随になったマサロウと親友テツヤを中心に展開。マサロウは実在の男性がモデルです。

バリアフリー演劇「まさろう」完成までには、一般的な演劇練習以上の労力が必要でした。副音声や字幕はパワーポイントを用いて作成。演劇のなかで、どのタイミングで副音声や字幕を入れるか。演劇とあわせる段階でも、役者は字幕を意識し予定通りのセリフを言わなければならない。健常者と障害者双方の観客の受け取る情報量が等しくなるよう準備段階から工夫を凝らし、膨大な作業を行い本番に臨みました。

今回の公演に尽力した佐藤さんは現在卒業論文のテーマにバリアフリー演劇を



選択。バリアフリー演劇の作り方や字幕作りなど、後に続く製作者達の参考になるようにとインターネットを通じて広く世界に発信したいと熱意あふれていました。

以下は公演を行った演劇部の部長によるコラム。

前回の公演「まさろう」は、字幕と副音声システムを導入しました。これは、ある先輩の「多くの人に感激をもらいたい。全ての人が楽しめるようなバリ

充実を！

体育系・文化系・クラブ・サークル紹介 ⑩

アフリーな劇を上演したい。」という強い思いで実現されました。前々回の公演で試験的に実施され、皆様のアンケートなどを参考に改善を加えて臨みました。

劇に字幕をつけるのは私たちにとっても初めてのことで、アンケートでも賛否両論、字幕とセリフが違っていると気になる、字幕のおかげで久しぶりに劇を楽しむことができ、嬉しかったなどの意見がありました。

やはり喜んでいただける方がいるというなら、これからも続けていきたいと思っています。

字幕、副音声システムを導入するには、演劇部だけでなくさまざまなグループの方々の協力がありました。そのような方々とのつながりを大切にしながら、これからも皆さんに楽しんでいただけるような演劇を作り上げていきたいです。

●茶道部

私たち茶道部は主に1、2、3年生で週3回、交流センターで活動しています。特に今年は1年生が23人も入部してくれ、毎日にぎやかです。11月にある凌雲祭では毎年部員皆が着物をきてお茶会をします。今は、それに向けて練習中です。お茶を通して、留学生との交流もあります。また、茶道部は学年を超えて仲が良く夏には全員でキャンプに行き、とてもいい雰囲気です。茶道をすることで、きちんとした礼儀作法を学ぶことができます。抹茶は体にもいいですよ。

抹茶を飲んだことがないと言う人も、そうでない人もぜひ一度遊びに来てください。堅苦しいことは一切ありません！おいしいお菓子とお茶を準備して待っています。

●スペイン語クラブ

私たちスペイン語クラブは、毎年春と秋に行われる西語検定に向けての学習を中心に活動を行っています。とは言っても、部員はスペイン語に関してまったくの初心者ばかりです。そのため、簡単な挨拶表現から導入し、検定に向けての基礎的な文法表現に、という具合に学習を進めています。

語学の面だけでなく、スペインという国（または公用語としてスペイン語を使っている国）の文化を知ろうという試みから、活動内容に名物料理作りや音楽鑑賞なども取り入れています。こういった文化鑑賞という観点から楽しくスペインという国に触れられるよう部員全体で工

夫して活動しています。

語学は基本的に個人学習ですが、部員と一緒に上達に向けて、頑張っていけるところがクラブであるいいところだと思います。スペイン語は英語に次ぐ、世界第2の重要な言語です。そのスペイン語を少しでも多く学び、文化を知ろうというのが、私たちが行っているクラブ活動なのです。

●宮崎家裁・少年友の会学生ボランティア部

私たち学生ボランティア部は、宮崎家庭裁判所にやってきた少年たち（少女も含めて少年と呼びます）との友達活動をしている部活です。友達活動と一口に言っても、おしゃべりや勉強、お菓子作り、山登りなど活動内容は少年によって様々です。

学ボラの大きな特徴は、大学では会合うことができない、少年たち、裁判所や宮崎友の会の方々など、多くの素敵な人



たちと出会うチャンスがあることです。また、その出会いが私たちを大きく成長させてくれ、自分たちの視野や考えを広げてくれているんだと感じています。特に少年たちは、私たちに多くのことを考え学ばせてくれています。学生ボランティア部は、大学の授業では学べないことを教えてくれる部活です。

■宮公大で九州インカレバスケットボール大会開催

7月3日から3日間、宮崎市総合体育館をメイン会場に宮崎公立大学体育館、宮崎産業経営大学体育館の3会場に分かれて、第54回九州地区大学学生体育大会（九州インカレ）バスケットボール競技が開催され、熱戦が繰り広げられました。

男子38大学、女子34大学の合計72大学が、それぞれ頂点をめざして宮崎に集まり、最終日、男子は宮崎産業経営大学、女子は鹿屋体育大学が優勝して大会の幕を閉じました。

九州インカレで本学が当番大学となる

のは、今回のバスケットボール競技がはじめてであったため、競技審判員や用具の手配、会場設営、競技ルールなどで、戸惑うことばかりでしたが、県協会など関係団体の指導を仰ぎながら、事務局とバスケットボール部、課外活動団体連合の三者が一体になって大会運営にあたり、見事に成功させることができました。

前日のラインテープ貼りから最終戦のスコアシート作成まで、会場係として運営に参加してくれた学生の皆さん、本当にお疲れ様でした。ご協力に心から感謝します。



卒業生だより

親しまれる警察官に

宮崎県警察 横川 香菜子



私は、就職してから9月までの半年間、警察学校でさまざまな教育を受けてきました。警察学校は皆さんのイメージ通り大変厳しいところです。

全寮制で朝は6時30分起床、夜は11時就寝という規律正しい生活を送ります。

入校する前は、男性と同じ訓練についていけるかどうか大変心配でした。

しかし、半年たった今、体力も向上し、厳しい訓練に耐えてきたことが大きな自信になっています。

10月からはいよいよ一線の現場に出て働くことになりました。

警察学校で学び得たことを活かし、また積極的に動いて県民に親しまれる警察官になりたいと思っています。

学生のみなさん、結果を恐れず何ごとにも挑戦してください。大学で学んだ知識や経験は必ずどこかで役立つはずです！

コミュニケーションしよう

佐鳥テクノシステム 篠田 良一



現在、私は皆さんが持っている携帯電話やPCなどに搭載されている部品を取扱う商社に勤め、勉強の日々を過ごしています。中でも当社は、主に三洋電機製品を取扱い、有名な販売先にはNECやCANONなどがあります。

最近、インターネットやメールの発達により、それらは仕事でも多く活用されています。実際、私自身一日に数十件ものメールのやり取りを取引先と行っています。しかし、本当に重要な情報は対面でのコミュニケーションでしか得られないということに、最近気付かされました。メールや電話をいくら活用しても解決できなかった問題が、取引先へ訪問し対面で会話することにより解決できたからです。このようなコミュニケーションのスキルは学生時代からでも十分に得ることができると考えます。

皆さんもメールなどのメディアを通してだけでなく、対面コミュニケーションを積極的にとっていきましょう。

Dreams come true!

延岡市立東海中学校 東 絵美



私は延岡市立東海^{とうみ}中学校に勤務しています。東海中は、611名の生徒数を持つ比較的大きく、緑に囲まれ、カニがあちらこちらに見られる自然豊かな学校です。

私は、一年生の学級担任、女子バスケット部顧問、生徒指導部、美化委員会担当などの仕事を担当しています。その一方で、この一年間は毎週、初任者対象の基本研修や授業研修と月に1、2回校外初任者研修等があり、教育者としての心構えや生徒指導・教科指導等を勉強させて頂いています。

今はまだ与えられた仕事をこなすことに精一杯で、先に働きかけることが難しいですが、かわいくてたまらない生徒たちのためにも、自分のためにも自分の英語能力や授業のスキル向上を目標に成長していこうと思います。

みなさん、たった一度の人生ですから、前向きな気持ちで、後悔しないように、自分の目標を一つ一つ実現させて生きていきましょうね。

夢に向かって前進!!

福岡シティクラブ 小窪 佳奈絵



弊社はホテルの経営を中心とする福岡地所グループの会社です。現在私は、博多駅筑紫口前にあるホテルのフロントで働いています。

主な仕事はチェックイン・アウト業務・ベル業務・予約業務等です。客室が530室あり、客層がビジネスマン・観光客からスポーツ団体まで幅広く、臨機応変な接客が求められます。

また、お客様は日本人に限らず、英語での通常業務は勿論、ハプニングの諸対処法や海外の旅行会社との対応の仕方も身に付けなければなりません。

夢はハイアットの営業部で海外に関する仕事に就くこと。

仕事で失敗をすることもあります。学生時代に戸高ゼミで学んだ‘No pain, no gain’の精神で頑張りたいです。

皆さんも、学生のうちに色々な経験をして夢や目標を見付け、それに向かって頑張ってください。

事務局だより



●平成16年度前期卒業式——

9月30日、学長室にて前期卒業式が行われました。浜野学長から5名の卒業生に卒業証書、学位記が授与され、続けて行われた学長告辞に卒業生一人ひとりが答辞を述べました。

●平成16年度(下半期)主な行事——

10月1日 後期授業開始
10月6日 公開講座開始
11月6日 凌雲祭(7日まで)
12月24日 冬季休業(1月4日まで)
1月15日 センター試験(16日まで)
1月26日 後期定期試験開始
2月25日 一般選抜前期試験
3月12日 一般選抜後期試験
3月24日 第9回卒業式

●蔚山大学校短期研修——

交流協定締結の平成7年から10回目となる蔚山大学校短期研修生20名を6月2日～28日の期間受入れました。日本語・日本文化研修、歓送迎会、ホームステイ、キャンプ、討論会、弁論大会等の全行事を修め、178人目の修了証書が授与されました。交流を通してお互いを知り、本学ホストファミリー会20家族が宮崎の両親に、学生パートナー20名が兄弟になり、新たな日韓家族の縁が生まれました。姉妹大学との交流が、さらに多くの人と人を結び続けていくことを切に願いたいものです。

●学生表彰第1号に村上綾子さん

平成16年4月1日に施行された、宮崎公立大学学生表彰要綱により、村上綾子さんが第1号に認定されました。村上さんは今年度の前期卒業生。同卒業式懇談会において表彰されました。

村上さんは要綱第4号の表彰基準、「人命救助その他の活動により、学外で表彰を受けた個人または団体、各種検定試験において優秀な成績を収めたもの」に該当。英語検定試験において、①TOEIC 800点以上、②TOEFL 213 (旧550) 点以上、③英語検定準1級の3つのうち2つに該当すれば表彰されることになっていますが、村上さんは3つの条件の全てに該当。浜野崇好学長から表彰状と記念品を授与されました。

保健室から

怪我を防ぐ為の手段である、ストレッチについてお話します。ストレッチ



は、柔軟性を高めてケガの予防をする、血流を良くして体を動きやすくする、疲労をとり、残さないという効果があります。しかし、ただ筋肉を伸ばせばいいというわけではなく、注意することが何点かあります。

それは、反動をつけない、呼吸を止めない、運動前後に行うという事です。また、収縮された筋肉は伸ばしてやり、伸ばした筋肉は収縮させるよう交互にストレッチングすると、より効果的です。けがの無いようスポーツを楽しみましょう。

学生相談室から

「頑張る！」

私は、笑顔で頑張ることを「頑張る！」(ガンバル)という造語を自分勝手に作って、使っています。私の好きな言葉です。考えてみると、私たちは、いろんな場合に、何か軽い気持ちで誰にでも「頑張れ！」と言っていますよね。アテネのオリンピックでも「頑張れ！」

「頑張れ！」の大合唱が日本国中にわき上がりました。この言葉に励まされてますます選手の皆さんが頑張って、オリンピック史上初めて最多のメダルを獲得することができましたね。しかし、反対にこの言葉の重圧に押しつぶされて、本来の実力を発揮できなかった選手の方もいたのではないかと思います。

病気で寝込んでいるときに、「頑張れ」と言われても、これ以上、何を頑張れば良いのかと、ますます気持ちが落ち込んでしまいます。また、気持ちが落ち込んで悩んでいる時に「頑張れ！」と言われても、ますます逃げ場の無い

袋小路に追いやられる事があります。

ある本屋に行きましたら次のような詩が書いてあるカレンダーを見つけました。
『泣いてもいちにち 怒ってもいちにち
悩んでもいちにち おんなじ1日なら
笑っていちにち それがきっとしあわせ
への 一番の近道』『笑う門には福きたる』と書いてありました。とても心に深く刻まれました。良い言葉ですね。

就職相談室から

景気もやや回復の兆しが見えてきましたが、企業側の新規採用に関しては人物重視の厳選採用であり、厳しい状況が続いています。さらに、年々早期化、長期化し、早い企業では年末から三年次生に対する採用活動を開始するところも出ています。

また、公務員や教員試験についても、志望する学生が増加し、受験者のレベルも向上していることから、ますます難関になってきています。

このため、本学では、これらの動きに合わせて計画的、かつ、きめ細かに就職支援事業を実施していますが、学生の皆さんにも、企業、官庁等の研究を十分に行うなど基礎固めをしっかり行って、就職活動を展開してほしいと思います。

就職先を決定するのはほかならぬ皆さん自身です。厳しい就職戦線を勝ち抜くには、しっかりと目標を持って計画的・合理的に活動を行う必要があります。

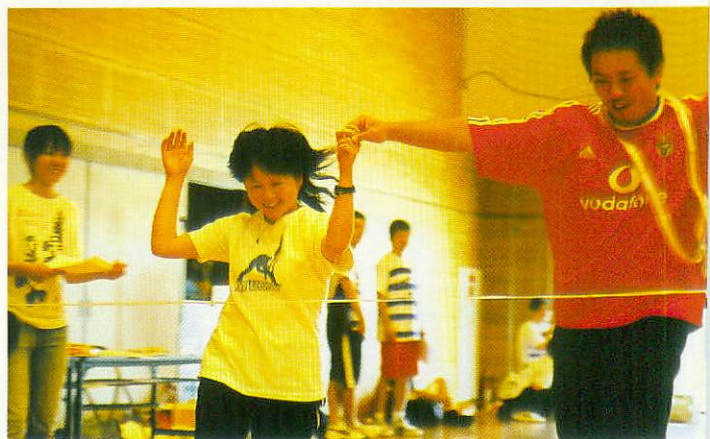
「就職相談室」は、皆さん一人ひとりの就職活動を親身になって支援したいと考えています。ぜひ積極的に、そして、気軽に活用してください。



目が回りそう。



飲みほすまでごくごくごく。



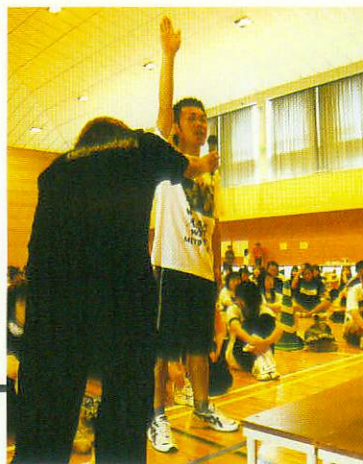
手を取りあってゴールイン。

応援に沸いた第11回スポーツデイ

5月14日、大学体育館を会場に学生・教職員約600名の参加のもと開催されました。

今年は、いままでのドッジボールにかわりミニバレーボールが登場し、思い通りに飛んでくれないボール相手に、各ゼミのチームワークを競い合いました。

また、アトラクションとしてTシャツコンテストや障害物競走も催され、会場は、終日、応援の歓声に包まれていました。



宣誓で始まった。

宮崎公立大学
MMUニュース・レター
第21号・冬

平成16年12月
発行 宮崎公立大学
編集発行人 田中 薫
〒880-8520 宮崎市船塚1-1-2
TEL 0985-20-2000
URL <http://www.miyazaki-mu.ac.jp>